



妻西中キャラ めにしちゃん

学び磨き鍛える

正しい判断力とたくましい実践力を
もった妻沼西中生を育む学校

発行 熊谷市立妻沼西中学校
電話 048(588)1361
FAX 048(589)0496
令和8年3月26日
第30号

『道しるべ』

校長 清水利浩



道しるべの碑は、右側。R8.3.23撮影

妻沼西中学校のPTA広報紙『妻沼西中だより』第141号が、3月13日に発行されました。PTA広報部の方々が、多くの時間をかけて編集し、素晴らしい広報紙が出来上がりました。ありがとうございました。その中、私から「目指す生徒像として、『正しい判断力とたくましい実践力をもった妻沼西中生』という目標があります。この言葉は、今後の人生の「道しるべ」になると確信しています」と書かせていただきました。

さて、妻沼西中学校の北西の角に、江戸時代の「道しるべ」の役割の石碑があることをご存じでしょうか。

正面に「六道能化地藏尊 ○○辰十一月造立 西保ん志屋うみち」と書かれています。その他の面には、

「東 めぬ満みち、南 く満かやみち、北 ○○志満かし」。かなり昔のもので、くずし字が得意でない私には、うまく解読できません。私の予測としては「西 ほんじやうみち、東 めぬまみち、南 くまがやみち、北 できじまかし」なのではないでしょうか。「道しるべ」は、ナビやネットの地図のない江戸時代の旅人にとっては、貴重な「道しるべ」だったことと思います。

今の世の中、いろいろなもので答えを急ぎ過ぎているのかもしれませんが。歩く者であれば、歩くスピードも、歩幅も、進む方向も一人ひとり違っていいのです。例えば、青信号は、「ひたすらに進め」と思ってしまおうのですが、青信号の本当の意味は「進んでもよい」だそうです。自動車では、そうはいかないものですが…。いろいろな意見をもった人たちが集まって、問題を解決しようとする時も、とにかく早く結果を出そうとすることを目的とするのではなく、何故、自分は、相手の考えと違いが生まれるのか、じっくり向き合うことが必要です。「かくあるべき」という先入観に対して、一度は疑ってみてもいいのです。

私たちが、正しい判断するにあたり、私たちの判断の大切な領域までも、ネットやAIの回答のみに委ねてしまわないようにしなければならぬと思います。アナログ的な、自分自身の考えを構築するために、その「道しるべ」として、一人一人の大切な「感受性」を研ぎ澄ませることを、ふだんから大切にしていくことを強く願います。今日は、節目であり、次に始まる新しい第一歩の日です。現学年の修了、おめでとう。

学校生活の様子



【福祉施設訪問準備】

日頃、お世話になっている福祉作業所へティッシュやペーパータオルを寄贈するために「妻沼西中」のラベル張りを行いました。



【福祉施設訪問】

お世話になっている校区内の福祉施設にティッシュやペーパータオルを寄贈しました。



【学年朝会】

1年生、2年生へ向けて、校長先生から『新しいステージの始まり』向けて講話がありました。



【2年生球技大会】

2年生が、球技大会を行いました。みんなで協力して、勝利を目指して頑張りました。



【1年生学年レク】

1年生の締めくりに学年レクを行いました。みんなで紙飛行機を作って、飛ばしました。



【大掃除】

お世話になった教室を心を込めて掃除しました。

※是非、妻沼西中学校ホームページをご覧ください。
右のQRコードから見るができます。

